

国立大学法人長岡技術科学大学  
令和6年度第2回経営協議会議事要旨

日時 令和6年6月24日（月）13時30分～15時20分

場所 長岡技術科学大学マルチメディアシステム棟会議室及びZoomミーティングによるハイブリッド会議

出席者 鎌土議長、天羽委員、荒木委員、池田委員、角田委員、合田委員、Tran委員、西岡委員、和田委員、梅田委員、吉田委員、佐藤委員、武田委員、高橋委員、井原委員、高見委員  
（議事の表決委任による出席：磯田委員、関委員、谷口委員）

陪席 日下部監事、野本監事、大塚附属図書館長

事務局 地域協創統括監、事務局次長（総務担当）、企画・広報室長、財務課長、監査室長、企画・広報室専門員、総務課参事、総務課専門員、財務課財務企画係長、財務課財務企画係主任、企画・広報室員、総務課総務係員、財務課財務企画係員

配付資料

令和6年度第1回経営協議会議事要旨（案）

資料1 令和5年度の計画に係る中期目標・中期計画の進捗状況に関する自己評価書（案）

資料2-1 令和5年度決算の概況

資料2-2 令和5事業年度決算について（案）

資料2-3 令和5事業年度財務諸表の解説（案）

資料2-4 令和5事業年度（第20期）財務諸表（案）

資料2-5 令和5事業年度（第20期）事業報告書（案）

資料2-6 令和5事業年度（第20期）決算報告書（案）

資料2-7 令和5事業年度（第20期）監事及び監査法人の監査報告書

資料3 令和6年度資金運用方針（案）

資料4-1 令和7年度長岡技術科学大学概算要求について（案）

資料4-2 令和7年度教育研究組織整備概算要求事項

資料4-3 令和7年度施設整備費補助金概算要求事項

資料5 国立大学法人ガバナンス・コード全原則に対する長岡技術科学大学の適合状況（令和6年度）（案）

（参考資料1）国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和5年度）

（参考資料2）ガバナンス・コードにかかる適合状況の確認スケジュール（予定）

（参考資料3）国立大学法人ガバナンス・コード改訂に関する意見

（参考資料4）別紙1\_「国立大学法人ガバナンス・コード」改訂版（国大協案）

（参考資料5）別紙2\_国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書 様式（国大協案）

報告1 令和5年度資金運用実績について

報告2 国立大学法人における会計監査人の選任について

報告3-1 国立大学協会声明文—我が国の輝ける未来のために—

報告3-2 （参考資料）国立大学協会声明

議事に先立ち、令和6年度第1回経営協議会議事要旨（案）について説明があり、案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 令和5年度の計画に係る中期目標・中期計画等進捗状況に関する自己評価書について

和田委員から、資料1に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は以下のとおり（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）

- 共同研究数が減少していたから目標を達成できなかったとのことだが、今後は学生の参加を呼びかけて、積極的に参加してもらえれば、この目標は達成すると理解してよいか。
- 共同研究は令和4年は205件、令和5年は194件であり、5パーセント程度減少した。共同研究数が減少したことも一因かと思うが、学生への情報共有が徹底されていない部分もある為、教員へ産学連携マッチング事業について情報共有を進めていきたい。
- 学部、研究科等の定員未充足の状況について、博士課程の収容定員は25名で、収容数は66名とのことで大幅に超過しているが、これで正しいのか。
- 令和4年度改組により学生募集を停止している博士課程の状況であり、在学生が修了できるよう引き続き教育を行っていくが、現在学生募集を行っている改組後の博士課程（先端工学専攻）の状況が重要であり、91.6%の定員充足率は問題ない範囲である。
- 共同研究数が減少したとの説明があったが、共同研究、寄附金等の外部資金受け入れ金額の評価はⅢとの評価については、件数と金額を併せて分析しておく必要があるのではないか。
- 件数ではなく金額の項目となる。令和3年から令和5年まで金額は増加しているが、件数は減少している。その原因については検証していきたいと思う。
- 共同研究が増えて行けば、目標に達成できるという理解か。
- そのようにしていきたい。受託研究が増えてきているところはある。概算要求等で獲得したものの成果をうまく共同研究にもっていく方法も考えていきたい。
- 共同研究の金額と件数との話があったが、量に固執せずに、クオリティをしっかりと見ていただければと思う。件数が下がっていても金額がしっかり伸びているのであれば、このような評価となっても不思議はない。
- 内容や金額と件数の推移について、傾向等を確認している。
- 共同研究等の学生の参加について、大学として、修士や博士の方々が参加していくということもクオリティに関係があると思うので、その辺りも含めて、意義のあるものにしていただいて、目標達成に力を入れていただきたい。
- 大きな研究テーマであれば、学生は複数人で分担して参加できることも促しながら、実施していきたい。

## 2. 令和5年度決算について

佐藤委員から資料2-1から2-6に基づき決算の主な概況について説明があり、審議の結果、これを承認した。また、野本監事から資料2-7に基づき監査結果の報告があった。

主な質疑応答は以下のとおり（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）

- 国大協より声明が発信されたが、本学においては堅調に推移していると認識してよいか。
- 財務担当が工夫して進めている。しかし、物価の高騰等により建設費等の負担増加等は懸念される。
- 他大学が学費をあげるということで議論になっているが、当大学はどのような検討がなされているのか。
- 進学する学生等に勉学の機会を提供する為にも授業料の値上げは検討していない。

## 3. 令和6年度資金運用方針について

佐藤委員から資料3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

## 4. 令和7年度概算要求について

佐藤委員から資料4に基づき、令和7年度の概算要求の方向性について説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は以下のとおり（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）

- センター等の名称について、一般に周知する際に分かりやすいネーミングがあると良いと思

う。

●出口戦略を考えて、検討していきたい。

5. 国立大学法人ガバナンス・コードの適合状況について

佐藤委員から資料5及び参考資料1～5に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

なお、学外委員及び監事に対しては、本会議終了後に改めて書面により依頼するので、意見等があれば7月10日（水）までに連絡して欲しい旨の説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）

○ステークホルダー協議会とはどのような組織か。

●大学においてステークホルダーに位置づけられる皆様（経営協議会委員・学生・地域・産業界等）よりいただいた意見を集約し、ステークホルダー協議会として学内で議論する場を設け、意見を踏まえて大学の運営に反映させていくという会議である。

【報告事項】

1. 令和5年度資金運用実績について

佐藤委員から、報告1に基づき報告があった。

2. 会計監査人の選任について

佐藤委員から、報告2に基づき報告があった。

3. 国立大学協会の声明について

佐藤委員から、報告3-1及び3-2に基づき国立大学協会より国立大学の置かれている現状・使命に関わる声明について報告があった。

【その他】

1. Newsweek International Magazineについて

鎌土議長からNewsweek International Magazineに本学の取組み等が掲載されたことの報告があった。

2. 監事の任期満了について

鎌土議長から8月末日で任期満了になられる日下部監事のご紹介があり、日下部監事よりご挨拶があった。

以 上